

BASF

We create chemistry

新規殺虫剤

エフィコン[®]SL

Powered by Axalion[®] Active

落ちる害虫、
生きる益虫。

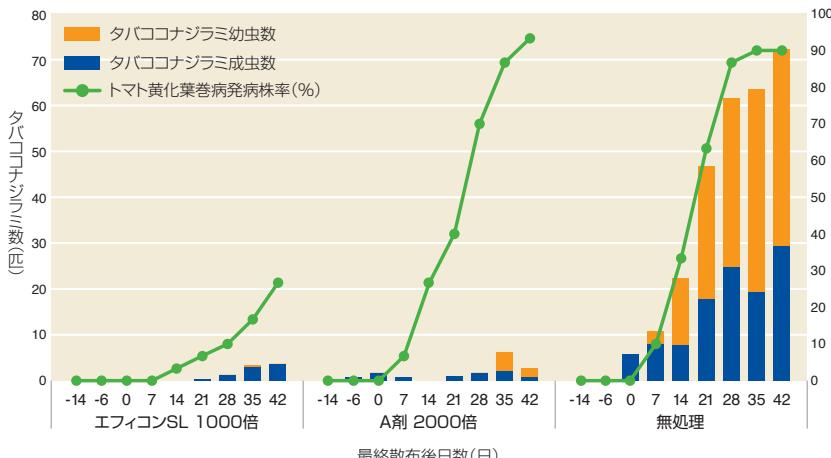


“ブレイキン効果[※]”による、
抵抗性害虫への優れた効果。
即効的な吸汁阻害によるウイルス媒介抑制。
有益昆虫に影響が少ない事が確認されており、
IPM（総合的病害虫管理）に有効。

※エフィコン[®]SLの有効成分アクサリオン[®]が害虫の弦音器官を沈黙させ、速やかに吸汁や定位といった行動を阻害する効果。
結果として、害虫が植物から落下するといった症状を引き起す。

発生初期に散布することで、高いウイルス媒介抑制効果を発揮

■タバココナジラミに対する防除効果・トマト黄化葉巻病発病抑制効果

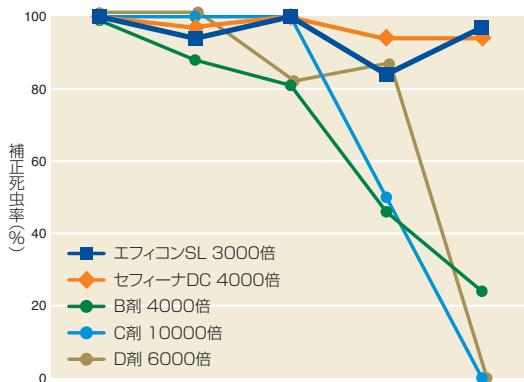


●試験実施機関:熊本県農業研究センター(2020) ●対象害虫:タバココナジラミ タイプQ ●作物トマト(りんか409) ●試験規模:7m²(1.4m×5m)・10株/区・3連対・施設栽培 ●試験方法および調査方法:各区合計3回(2020年8月31日、9月8日、9月14日)の散布を行い、前後の成虫数、中・老齢幼虫数およびトマト黄化葉巻病発病株数を調査し、発病株率を求めた。

A剤と比較してタバココナジラミの虫数はほぼ同等であったにもかかわらず、
エフィコン®SLは優れたウイルス媒介抑制効果を示した。

優れた移行性により、作物を長期間保護

■ジャガイモヒゲナガアブラムシに対する防除効果



●試験実施機関:BASFジャパン(株)AGSF成東(2020) ●対象害虫:ジャガイモヒゲナガアブラムシ ●作物:ばれいしょ(男爵) ●試験規模:1/5000a²グレネルポット植え、1区1株、3回復 ●試験方法および調査方法:ポット植えのばれいしょに葉を散布(6月11日)し屋外に静置。散布当日、1、8、14、20日後に葉を採取し、1葉あたりアブラムシ幼虫10頭を接種。接種4~6日後に生存虫数を調査し補正死虫率を求めた。尚、試験期間中、総雨量211.5mmの降雨があったが、散布当日直後に影響はなかった。

エフィコン®SLはセフィーナ®DC同様に散布後約3週間まで高い死虫率で推移し、対照剤に比べ優れた残効性を示した。

■適用病害虫名と使用方法

※1:セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(30×60cm、使用土壌約1.5~4ℓ)当たり0.5ℓ ※2:ペーパーポット1冊当たり1ℓ(3ℓ/m²)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジンプロピリダズを含む農薬の総使用回数
りんご	アブラムシ類	1000~2000倍	200~700ℓ/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内
なし							
もも							
おうとう		1000倍		収穫前日まで			
ぶどう	チャノキヨロアザミウマ	収穫7日前まで					
キャベツ	アブラムシ類	250倍	100~300ℓ/10a	定植当日	1回	灌注	3回以内 (但し、定植時までの灌注処理は1回以内、散布は2回以内)
プロッコリー		1000~2000倍		収穫前日まで	2回以内	散布	
はくさい		1000倍		定植3日前~定植当日	1回	灌注	
レタス類	アブラムシ類	250倍	100~300ℓ/10a	定植前日まで	2回以内	散布	
トマト		1000~2000倍		定植3日前~定植当日	1回	育苗ポット灌注	
ミニトマト	コナジラミ類、アザミウマ類	1000倍		100~300ℓ/10a	2回以内	散布	
なす	アブラムシ類、コナジラミ類	500倍	50mℓ/株	定植当日	1回	育苗ポット灌注	
きゅうり	アブラムシ類	1000~2000倍	100~300ℓ/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	
ピーマン	コナジラミ類、アザミウマ類	1000倍		定植3日前~定植当日	1回	育苗ポット灌注	
すいか	アブラムシ類、コナジラミ類	500倍	50mℓ/株	定植当日	1回	育苗ポット灌注	
メロン	アブラムシ類	1000~2000倍	100~300ℓ/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	
いちご	アザミウマ類	1000倍		定植3日前~定植当日	1回	育苗ポット灌注	
てんさい	アブラムシ類	500倍	50mℓ/株	定植当日	1回	灌注	3回以内 (但し、植付時の植溝内土壤散布は1回以内、散布は2回以内)
ばれいしょ		1000~2000倍	100~300ℓ/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	
だいす		1000倍		植付時	1回	植溝内土壤散布	
茶	チャノミドリヒメヨコバイ チャノキヨロアザミウマ	500~1000倍	200~400ℓ/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	

△効果・薬害等の注意事項

●使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。●散布量は対象作物の生育段階、栽培形態および散布方法に合わせて調節してください。●軟弱な苗、または高温条件下で灌注すると葉害を生じるおそれがあるので注意してください。●野菜類への灌注処理後、ポット又はフレイのまま放置すると、葉縁部の壊死やそれに伴う葉の変形を生じるおそれがあるため、灌注処理後はできるだけ速やかに定植してください。●ぶどうの幼果期から果粒肥大期の散布は果粉の溶脱のおそれがあるので使用をさけてください。●茎葉散布は、害虫の発生初期に使い、とくに発生が多くなってからのアザミウマ

類、カイガラムシ類への散布は効果が劣るので、発生状況をよく確認の上、使用してください。●りんごの品種「秋映」では、花弁や葉に薬害(褐変)が生じるので使用しないでください。また、飛散(ドリフト)等により散布液がかかるないように十分注意してください。●チャベツの育苗期に灌注する場合は、事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。特に、品種「初秋」に使用すると、葉の奇形や生育遅延を生じる場合があるので注意してください。●使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。●適用作物群に属する作物又はその新品種に初めて使用する場合は、使用者の

責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。●過度の連用を避け、可能な限り作用性の異なる薬剤やその他の防除手段を組み合わせて使用してください。●空容器等はは場に放置せず環境に影響を与えないよう適切に処理してください。

△安全使用上の注意事項

保管…火気をさけ、食品と区別して、直射日光のあたらない低温な場所に密栓して保管してください。

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●小児の手の届く所には置かないでください。●使用後の空容器は圃場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理してください。●防除日誌を記帳しましょう。

BASFジャパン株式会社

〒103-0022 東京都中央区日本橋室町3丁目4番4号 OVAL日本橋ビル3階
☎0120-014-660 <https://crop-protection.bASF.co.jp/>



詳細やSDSはWEBでご覧いただけます。

このチラシの記載内容は2026年1月現在のものです。